

# 特集 コロナに負けず、“いま”できる活動を！

## 読み語りの会ほっと～朗読や読み聞かせを通して子どもたちに元気を～

読み語りの会ほっとは、平成26年4月に結成されたボランティアグループ。経験のあるなしに関わらず集まった7人のメンバーで、月2回練習会をしながら、様々な場所で朗読や読み聞かせを行っています。

例年は、福井市内外の小学校や図書館、福祉施設などで活動していましたが、新型コロナウイルスの影響でほとんどの活動が中止に。現在は、マスクやフェイスシールドで読み手の感情や声が伝わりにくい中でも朗読や読み聞かせを楽しんでもらえるよう、コロナ下ならではのやり方を練習し、再開に備えています。

本紙の表紙でも紹介している11月23日(月・祝)に開催した「ブックサイクルと絵本の読み聞かせ」のイベントでは、訪れた子どもたちへの絵本の読み聞かせや、ボランティアとして参加した高校生への読み聞かせ方法の指導にもご協力くださり、多くの子どもたちに温かい声を届けてくれました。

代表の岡田妙子さんは「目を輝かせて聴いてくれる子どもたちの姿が、活動の源になっている。こんなときだからこそ、絵本を通してたくさん子どもたちに元気になってもらいたい。今後は、メンバーを増やして、グループとしての活動の幅も広げていきたい」と話してくれました。



▲絵本の読み聞かせの様子

## 福井市ボランティア連絡協議会～大事なことは継続すること! withコロナで、できる形で～

福井市ボランティア連絡協議会は、ボランティアグループ同士のネットワークづくりと親睦を深めることを目的に昭和57年12月に設立され、今年で38年になります。設立当初は13のグループでスタートし、その後30グループまで増えましたが、現在は8つのグループ会員と個人会員の約110名で活動しています。

活動としては、ユニークダンスパーティーや陸前高田市の物産展・募金活動を通じた東日本大震災復興支援企画を毎年開催し、広く市民に呼びかけながら障がい者との交流や復興支援を継続的に行っています。

また、駅周辺や公共施設等のバリアフリーチェックを何度も実施し、関係機関等へ点字ブロックやスロープの設置及び改善を提案することで、誰もが暮らしやすいまちづくりをめざしています。

新型コロナウイルスの影響で活動を自粛した期間もありましたが、7月から定例会を再開。新型コロナウイルスに関する情報が錯綜する中、感染対策を学ぼうと11月15日に「新型コロナウイルス予防講演会」を開催し、12月13日には「第42回ユニークダンスパーティー」を予定しています。

本禄宏行会長は、「ユニークダンスパーティーは毎年楽しみにしている障がい者も多く、40年以上続けていると、同窓会のようになっています。withコロナの時代、感染防止策を徹底して、今年は着席して鑑賞する内容に変更しました。閉じこもり気味の障がい者も、当日は楽しんでほしい！」と意気込みを語ってくれました。(詳しくは3ページをご覧ください。)



▲高校生と一緒に実施したバリアフリーチェックの様子(2017年8月)

